

1 期生（2005年度入学）からのメッセージ：入学後10年目を迎えて

●後藤 麻友

私はM1よりインターンで関わっていた外部EAP（Employee Assistance Program）機関のピースマインド・イーブ㈱に入社し、以降現在まで勤めています。臨床に限らず、研究、研修や新規サービスの企画開発など様々な業務に携わってきました。心理職が多い職場で研鑽の機会も多く、安心して仕事出来るのが臨床をする上で大きな支えになっています。プライベートでは2児（3歳・娘と1歳・息子）を授かり、子育てにも奮闘中です。

●馬場 久美子

この度は、臨床心理学専攻10周年おめでとうございます。

私は、中学校の相談員、EAP会社での勤務を経て、現在は、心理職ではなく一般事務員として働いています。

10年前、入学した当初は、漠然と「心理相談員になりたい」と思っていました。今は、跡見で学んだことを活かして「働く人々や、地域の中で、お互いにサポートし合えたら」と考えています。

●村井 志絵

私は大学院を修了してから、目黒区の療育施設に非常勤の心理相談員として6年間勤務をし、現在は大田区子ども家庭支援センター六郷で心理士として勤務しています。委託運営の為、所属は株式会社の正社員です。以前は知的・発達障害の子ども達の療育や発達検査等を行ってききましたが、現在の職場は子育て支援の為、今まで以上に扱う範囲が広がりました。仕事の内容は、子育てひろばの運営、個別・電話相談等です。私は現在も臨床心理士の資格を取得できていませんが、経験を積んで心理として生きていく事ができています。資格に関してはどんな形であれ、今後も希望を捨てずに前向きに考えていきたいと思います。変な話ですが、臨床心理士未取得のまま心理として生きている私の経歴が、後輩達に役に立つ事を信じて書かせていただきました。後輩の皆さんには、資格の有無について関係なく頑張っていたいただきたいと思います。

●宮辺 美夏

大学院修了以来続けていた跡見の相談所のインターカーの仕事は2015年3月末で終了です。M1以来10年間新座に通ったこととなります。現在は、臨床心理士としての仕事の目標としていた東京都のSCに専念し、小・中学校を担当しています。

M1のときには小学生だった息子も大学生となり、成人式を迎えました。今年はSTAR WARSの年でもあり、新座のトイザラスで息子のためにライトセイバーを購入したことがいい思い出です。

●下平 健史

私は大学院終了後、池袋カウンセリングセンターに就職し、翌年からセンターの母体であるほづみクリニックにて勤務しました。そこでは心理面接を通じて、患者の妄想や幻覚、抑うつ、不安、時には狂気といった生々しい情緒に触れる体験を持つことができました。それが私の臨床の基礎となっています。

また、クリニック勤務と並行して週に1日、インタークアシスタントとして跡見相談所にも4年間お世話になりました。

現在は、2013年から防衛省職員として陸上自衛隊の駐屯地で勤務しています。医療領域から産業領域へと臨床の場が変化し、日々、組織の中で臨床心理士が活動することの困難に直面しつつ、同時にやりがいも感じながら必死で毎日を過ごしているところです。

●末 珠美

私は、卒業後、神奈川県藤沢市のスクールカウンセラー（小学校を3校担当）と、横浜市にある民間の療育施設に掛け持ちで5年間勤めていました。その経験の中で、もっと療育に深く携わりたいと感じるようになり、現在は、藤沢市の児童発達支援センターで常勤心理職として働いています。心理職1名という職場ですが、通園に通っているお子さんの見立てや個別療育、保護者支援、また、近隣の園への巡回相談など、様々な仕事に日々奮闘しています。

●伊東 史工

私は大学院修了後、東京女子医科大学附属女性生涯健康センター（心理検査結果入力担当）、同附属成人医学センター（認知症検査テスター）、熊谷児童相談所（みどりの手帳判定員）に非常勤心理士として勤務いたしました。

臨床心理士資格取得後は、女子医大附属女性生涯健康センターの非常勤を続けながらスクールカウンセラーを経験し、卒後3年目の2009年から女性生涯健康センターの常勤心理士となり、現在は毎日臨床業務を行っております。